

クレハの過去・現在・未来は 「いわき（錦）」から

株式会社クレハ
執行役員 生産・技術本部長 いわき事業所長
木田 淳



クレハ（呉羽化学工業）は1944年（昭和19年）6月に設立され、今年で79周年を迎えることができました。その前身である昭和人絹の設立から数えますと、実に89年の歳月が流れたこととなります。クレハの前身である昭和人絹を起業した高橋保は、工場建設用地として茨城県高萩地区や、広島県の瀬戸内海沿いの各地を検討しました。その時たまたま福島県出身の貴族院議員である金成通と面談し、彼の積極的な工場誘致によって福島県の錦村（現錦町いわき事業所）に建設する話が、たちまち決定したようです。

金成通は磐城の出身で、錦村の発展のために工場誘致を思い立ち、鮫川の良質な用水、常磐地帯の低廉な石炭、そして豊富な労働力の存在を強調し、工場建設を説いたのです。この頃の錦村の人口は約3,500人、村長は金成欽次、村の財政は年間1万5,000円程度、村民の大多数は農民で小作農が過半数だったようです。

2023年4月、私たちクレハグループは新たにグループ企業理念を掲げ、グループ各社は新たにビジョンを制定しました。「中長期的な企業価値の向上」と「持続可能な社会への貢献」を機軸にしたサステナビリティ経営を、諸施策の策定と実行をもって推進していきます。

いつの時代も主力事業所

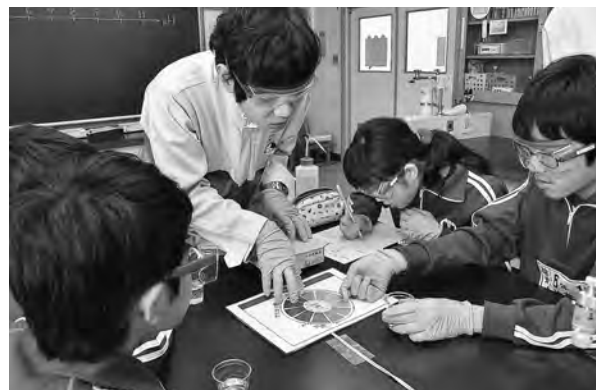
いわき事業所は、私が入社した1987年当時から現在に至る今でも、クレハグループの主力の生産拠点として、加えて主力研究拠点・技術拠点として事業活動を行っています。近年は電気自動車やハイブリッド車へ搭載されるリチウムイオン電池のバインダーとして用いられる「KF ポリマー（PVDF）」が会社業績を牽引する中心的な役割を担っており、いわき事業所では6,000トンの生産能力を持って世界へと供給しています。また、お客様からのさらなる供給拡大の要請に応えるため、2026年3月完工予定で8,000トンの生産設備を増強します。それ以外にも自動車部品や電気・電子部品に使用される機能樹脂「フォートロン KPS」、高温炉などの断熱材として用いられる炭素繊維、食品用ラップ「NEW クレラップ」をはじめとする食品包装材の原料、慢性腎不全用剤といった医薬品など、クレハグループのマザー事業所としてスペシャリティ製品を創出し、価値あるモノづくりに取り組んでいます。

地域との共生

創業以来、いわき事業所の所在地は住宅地に隣接しています。このような立地環境にあるため、この地で事業を継続していくには地域社会の皆様との理解と協力が不可欠であります。クレハグループは、地域の皆様と共に持続可能な社会を創り上げていくために良好なコミュニケーションを図り、地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでいきます。

地域共生の具体的な取り組みの一つとして、2003年度から「CSR 地域対話集会」を開催しています。クレハグループのCSR活動を地域の皆様にご理解いただき安心して暮らしていただくことを目的にしており、当初はクレハが単独で実施していましたが、3回目からはグループ会社も含めて情報を発信しています。例年、約100名の地域の皆様（行政機関、地域団体、地区役員、近隣企業の皆様）にご参加いただいています。さらにクレハグループへの理解を深めていただくため、説明会終了後にはいわき事業所およびグループ会社の見学も併せて実施しています。

また化学メーカーとして、子どもたちの理科離れが問題となり始めたことに対して、「化学の楽しさ、未来への可能性」を子どもたちに伝えたい、そのような思いから、1999年度から小学生を対象に理科授業を実施しています。若手の技術系社員が講師を務め、自分たちでプログラムを考えて授業を行っており、のべ2,847名の小学生に理科の楽しさを伝えてきています。現在は、5年生にいわき事業所の見学、6年生には理科授業を体験してもらっています。（コロナ禍では休止）



理科授業の様子

クレハは来年6月21日に80周年を迎えます。地域社会とともに歩む企業として、これからも地域の方々との対話を継続しながら発展を担っていきます。地域の中核病院としている「呉羽総合病院」、障がい者の自立支援を目的に設立した「さんしゃいんクレハ」の経営においても、しっかりと地域共生の役割を果たしていきます。